

奈良市環境基本計画市民ワークショップ第10回分科会 会議録

<日時・場所>

分科会名	開催日時・場所
環境教育	8月12日(金) 19時～21時 北棟5階 第21会議室
自然・歴史	8月10日(水) 18時～20時 北棟5階 第21会議室
生活環境	8月18日(木) 19時～21時 北棟5階 第21会議室
都市環境	8月 2日(火) 14時～16時 北棟6階 第23会議室
地球温暖化対策	8月 9日(火) 18時～21時 北棟6階 第23会議室

<プログラム>

1. はじめに
2. 具体的施策のとりまとめ
3. その他

<会議資料>

- ①【参考】具体的施策検討の進め方について(第7回～第9回分科会)
- ②【資料1】施策の進捗状況調査結果表
- ③【資料2】問題点から課題まとめ(分科会別)
- ④【資料3】市民・事業所アンケート調査結果報告書(概要)
- ⑤【資料4】市民・事業所アンケート調査結果報告書
- ⑥【資料5】市民・事業所アンケート調査票
- ⑦第10回分科会 ふりかえりシート

※①～⑥は、第7回分科会で配布しました。

<次回ワークショップの開催について>

次回、第5回全体会議は8月26日(金) 18時半～21時に開催する。分科会毎の具体的施策の取りまとめ及びリーディングプロジェクトについて発表を行う。

環境教育分科会

平成23年8月12日（金）19時～21時 第21会議室（北棟5階）

<出席者>

[]は当日欠席委員

委員：岡本、島、黒飛、船本、[梶野]、[南垣内]

事務局員：村井、吉留

<オブザーバー>

北端

■具体的施策の取りまとめについて

「プログラムの作成・実践活用」、「環境教育を推進する組織」、「進捗状況、効果を評価する会議」の三本柱とすることを考えている。

■各内容について

1. 環境教育を推進する組織

・組織を最初から作っていく方がいいのか、既存の組織を活用していく方がいいのか。また、自治会組織の中がいいのか、地域教育協議会がいいのか？

→既存の組織では、結局先送りになってしまい、あまり進んでいかないと思う。

→地域教育協議会を活用し、環境に特化したコーディネーターを各地域から選出してもらってはどうか。

→現在、地域教育協議会が設置されて、ようやく地域コーディネーターが育ってきたところ。

これは地域で子どもたちを育てるための様々なことを考えるコーディネーターなので、これをもっと環境系に染められないかと思っている。

・環境コーディネーターの設置についての施策は、推進組織を作るという施策と併せて1つの施策にしてはどうか。

・環境コーディネーター…環境委員を支援するような人材のイメージ

2. プログラムの作成・実践活用

・リーダーなどの人材育成について施策は、短期的にはそのためのプログラムを作成することから始まっている。プログラム作成と人材育成を併せて1つの施策にしてはどうか。

・リーダー…プログラムを実践する人材（講師）

・もう活動する時期に来ていると考えているが、リーダーを実際に養成するような段階なのだろうか？

→環境委員だけでは活動を進めていけないと思う。そのための支援をできる人材を養成していく必要がある。今の状況では委員に委ねても進めていけない。その支援体制を作るのが重要。

・環境教育を進める人に対して指導する人が必要。現在活動している人やNPO等だけでは指導に手が回らないと思う。

・清掃活動が多いのも、他の環境活動をできる状況にないからだと思う。そのためにプログラム

を用意することも重要。

- ・実際に活動できる人を作っていかなければならない。
- ・モデルケースとなるような地域ができれば大成功だと思う。
- ・人材育成のための養成講座について…NEW でも議論にあがっているがなかなか難しい。講座全体を仕切れる人が必要。

→一人ですべてを担う必要はなく、分野ごとで役割を分けてもいいのではないかな。

3. 進捗状況、効果进行评估する会議

3年に1度ぐらいの頻度で進捗状況进行评估し、見直す機会を設ける。

- ・市民ワークショップ委員でいいのでは？
→公平に評価できる専門家の方がいいのではないかと考えている。
- ・提案されたワークシートでは自己評価となっているが、第三者評価の方がいいのでは？
→客観的に評価するためには、第三者評価の方がいいと思う。
- ・基本計画全体のことを評価するイメージなのか、環境教育だけなのか？
→全体を考えている。
- ・全体进行评估するのであれば、全体場で提案してみてもは？
- ・第2次計画全体の評価については、作業部会という形で環境審議会から数名・ワークショップ委員から数名・公募市民・事業者・行政などで構成し、作業部会の評価を審議会にかけていこうというイメージを考えている。
- ・環境教育分野についての評価も重要だと思う。環境教育分野での施策として提案する。

■施策ワークシートのまとめ

以上の議論により、環境教育分科会としては5つの施策を提案することになった。

プログラムの作成・実践活用

- ①地域に合ったプログラムの作成と指導者養成
- ②場・機会の提供（学校教育編）
- ③場・機会の提供（公民館編）

環境教育を推進する組織

- ④推進組織を作る

進捗状況、効果进行评估する会議

- ⑤環境教育の進捗状況評価

自然・歴史分科会

平成23年8月10日（水）18時半～20時半 第21会議室（北棟5階）

<出席者>

委員：井上^雅、岡野、中川、日月、横山、横田

事務局員：桐山、平野、石橋

第7回から第9回分科会では自然、歴史や観光に関わる課との質疑応答を行ってきた。質疑応答を通じて得られた知識をもとに、各委員が施策の検討ワークシートを作成し、今回の分科会でテーマごとに意見をまとめていく。

○歴史の将来像について

歴史の将来像“歴史、文化を活かし、未来へ引き継ぐまち”とあるが、奈良市の独自性に欠けている。奈良市には世界に誇れる世界遺産があり、世界遺産、文化遺産などの文言を将来像に入れるべきではないか。また、東日本の震災をうけて、文化財の保護も問題になっているので、安全・安心なまちづくりという観点も入れるべきではないか。

→世界遺産や防災の観点を歴史の将来像に反映できるように検討していく。

○テーマ別でのワークシートの検討

～地産地消、農地の活用について～

<関連するワークシート>

岡野さんワークシート

日月さんワークシートB, D

井上さんワークシートB

<検討内容>

・目標は日月さんのワークシートの目標「豊かな農地を残し、地産地消の仕組みを蘇らせ、併せて多くの動植物が生息できる水辺の自然と景観を残す。食料自給率アップを目指し、休耕田畑を減らし農業を活性化させる。」が具体的で良いのでは

・指標は一人当たりの耕作農地面積（休耕田がどれだけ減少したか）、農業従事者数（労働人口に占める割合）、自給率が良いのではないか

・農業従事者が減少して放置された休耕田が荒れている。休耕田を農地として利用するために奈良独自の野菜を生産し、また学校での農業体験の教材として利用してもらうことなどを検討し、農業従事者が増える社会を築いていく必要があるのでは

・地産地消といえば農作物のイメージが強いが、エネルギーの地産地消も大切で、小規模な再生可能エネルギー施設を普及させていくことも検討すべきでは

→エネルギーの分野は他の分科会との検討も必要なため、全体会議で進言する。

・地産地消には生産だけでなく、奈良市で生産したものをどの様に消費してもらうのかの観点も重要ではないか

→学校給食で利用、スーパーや営農組合を活用していく必要がある。

- ・岡野さんにワークシートのまとめを依頼

～林業、森林の活用について～

<関連するワークシート>

井上さんワークシートA

日月さんワークシートA

<検討内容>

- ・指標としては一人当たりの森林面積、林業従事者（労働人口に占める割合）が良いのでは
- ・目標は日月さんのワークシートの「澄んだ空気、緑豊かな森を残し、市街地の自然の緑を引き継ぐ。手入れ不足の人工林、里山林、竹林の整備を進める。」がよいのでは
- ・現在、木材の価値は安く、林業は採算が合わなくなっている。間伐後、山の中に木が放置されている状況に対処するため、間伐した木を山から出さないと補助金がもらえない仕組みがあるが、このような策を検討していかないと森林、林業の再生につながらないのでは
- ・森林の活用として、木材をチップ化し燃料に用いる策もある。また現在注目されている“森林浴”にスポットをあて、奈良市が大阪、京都などの都市部に近い立地条件を活かして、森林スポットとして活用していく策もあるのでは
- ・日月さんにワークシートのまとめを依頼

～生物多様性、外来種について～

<関連するワークシート>

井上さんワークシートC

日月さんワークシートC

中川さんワークシート（自然分野）

平野さんワークシート

石橋さんワークシート

<検討内容>

- ・現在奈良市全体で、どのような生物がどのような環境で、いくら存在しているのか詳しい調査が行われていない。生物多様性の条例を作ることも大切だが、条例作成と並行して、市民の方々の協力を得ながら生態系調査を行う必要があるのでは。その協力を得るための企画を提供していくべきでは
 - ・外来生物が奈良市の自然、文化財を荒らしている。条例をつくっていくことも大切だが、条例だけではなく、奈良市でどのような外来生物が問題になっているのか啓発、周知が大切
 - ・奈良市では現在、生物多様性や外来生物の専門の課は無く、条例をつくることは難しい。
- 市では課の数を減らす傾向にあるが、必要な課は新設する必要があるのでは
- 井上さんがワークシートの取りまとめを行う

～水環境について～

<関連ワークシート>

井上さんワークシートD

<検討内容>

- ・目標 20ヶ所親水公園をつくる
- ・河川、ため池に親水公園などを整備し、イベントを企画することで水辺の自然に触れる機会を増やせる。
- ・現在の河川、ため池ではゲリラ豪雨の際に治水効果が追いつかない可能性があり、科学的な検討を行い治水対策が必要

～文化財・景観の保護、観光PRについて～

①文化財の保護

<関連ワークシート>

中川さんワークシート①

<検討内容>

- ・現在登録されている文化財以外にも奈良市には多くの価値のある文化財が存在している。これらの文化財の保存も検討していくべきでは

②イベントの告知

<関連ワークシート>

日月さんワークシートE、G

横田さんワークシート

<検討内容>

- ・奈良市内で行われているさまざまな歴史的イベントを分かりやすく発信することで活気づき、宿泊者の増加にもつながるのではないかと

③景観の良さを知ってもらうための活動

<関連ワークシート>

中川さんワークシート③

平野さんワークシート

<検討内容>

- ・奈良らしい伝統と街並みが一体になったまちを目指すためには景観の保全が重要で、景観を美しく保つことで商店街、地元企業が活気づいていくのでは

④自動車の世界遺産や国宝、ならまちへの乗り入れ規制

<関連ワークシート>

井上さんワークシートE-1

中川さんワークシート③

<検討内容>

- ・国、県と調整を行い市内の観光地周辺への自動車の乗り入れを規制または条例を制定し、大気汚染、騒音を減らし、またゆったりと歩いて観光できるような街にしたい

～文化財・まちの災害対策～

<関連するワークシート>

井上さんワークシートE-2、E-3、F

日月さんワークシートF

中川さんワークシート②

横山さんワークシート

<検討内容>

・指定文化財以外にも奈良市には多くの未指定文化財があり、震災からこれらを守るためにはあらゆる状況を想定し対策を考えておく必要がある。

・若い世代の人々は世界遺産に興味がない人が多い。将来的に奈良市の遺産を守り続けていくためには若い世代の人々に知ってもらう必要がある。

→環境教育分科会とも関連する内容なのでともに検討していく必要がある。

・将来的に文化財を保存していくためには森林の育成が重要であり、また文化財だけではなく文化財周辺のバッファゾーンをともに守っていく必要がある。

生活環境分科会

平成23年8月18日（木）19時～21時 第21会議室（北棟5階）

<出席者>

[]は当日欠席委員

委員：瀬林、栗岡、池田、井上_聡、小松、[橋本]、矢藤

事務局員：新井、杉田

<オブザーバー>

北端

分野別将来像：○きれいな空気・水・緑に囲まれた、安全・安心・健康・快適な生活環境の実現をめざす
○資源・エネルギーを大切にすまち

施策の検討ワークシートについては、各委員が事前に提出したワークシートを上記二つの将来像別に分け、話し合いを行った。

○「資源・エネルギーを大切にすまち」

各委員により、ワークシートの説明が行われた。

池田委員

①生活起因の廃棄物・焼却ごみの30%減量

公には唄えないが、新焼却施設（クリーンセンター）の建設をなしにした場合を想定している。建設をやめれば、今ある焼却施設で焼却できるくらいにゴミを減らす方向にもっていけないか。

→ゴミを減らしたら、建て替えをなしにするという話になるのか？という問いに対し、建て替えが必要ないと言っているのではなく、場所を変えて建てる必要があるかという意味であり、今ある施設内に建てられないかとのこと。

井上_聡委員

①廃棄物の不法投棄対策推進

不法投棄された廃棄物は、土地の所有者でなくても処理できるようにして欲しい（行政代執行等）。

自販機の横に回収ボックスの設置義務付け

→（新井補佐）ワークシートの指標にある未然防止率とは？

→不法投棄全体のうち未然防止をしたのは何%かという意味。不法投棄された後より先に防止した方が回収等のコストがかからないので、未然に防止したい。数値が出せないなら、発見・摘発件数が減ったということでもいい。

②家庭や事業所からの一般ゴミの排出量の削減

目標は一人あたりのゴミの排出量を今の半分にすることで、再資源化システムを確立したい。

③不用品のリユース・廃棄物のリサイクルの推進

市民一人当たりの再資源化品生産量が設定できればいいなと思っている。

⑥市民生活のエコ化

節電、節ガス、エコカーへの切り替え

→地球温暖化の分科会の内容と思われる。

⑦廃棄物処理に関わるコストの削減

一人当たりのゴミ処理費用を2割減らしたい。

栗岡委員

①自販機条例を制定

指標に10年後のゼロ・ウェイスト宣言とあげているが、これは世界的に広がっており、日本では上勝町（徳島県）、大木町（福岡県）、水俣市（熊本県）が宣言を出しており、葉山町（神奈川県）や町田市（東京都）が検討中であり、奈良市でも10年後に行って欲しい。

②有害廃棄物の適正処理、生ごみの堆肥化、紙や家庭から出る剪定ごみなどの資源化

電池や蛍光灯などの有害廃棄物の回収のシステムづくり（電気屋さんなどに持っていく等）。

③レジ袋を有料化し、トレーなどの容器包装も削減する

④環境指標（エコロジカル・フットプリント）で奈良市民の環境負荷を調べ、負荷の少ない暮らしの啓発に役立てる

→（新井補佐）自然・歴史の分科会でもでてきており、おそらくリーディングプロジェクトにあがると思う。

⑤ゴミの有料化

→（新井補佐）ゴミの有料化に関しては、市長も気にしており、ここ2年くらいで実行する可能性ある。

小松委員

①レジ袋の有料化

山口県光市の環境政策課は、環境基本計画のリーディングプロジェクトである「もったいない文化推進プロジェクト」の一環でふるしきを販売しており、奈良市でもおしゃれなエコバックを作ったりしてもらいたい。

②自販機の横にゴミ箱設置の義務化

③秋に夏草・枝等の剪定ゴミを町内で回収出来る日を設ける

剪定ゴミは資源化できればよいと思う。

矢藤委員

①3Rの推進

②レジ袋有料化と容器包装の削減

コープではレジ袋を5円で提供しており、これらの積立金は環境面の事業で返している。

③ゴミの有料化

ゴミを出さないような意識向上につながる。

④自販機についての条例化

環境面だけではなく、自販機が多いのも子供によくない。自販機自体も減らすことが必要。

瀬林委員

- ① 2 R の徹底、1 R の推進
- ② 一般廃棄物の適正処理の推進、循環型社会に対応した新施設の適正計画の整備
- ③ 産業廃棄物の 3 R の推進
- ④ 不法投棄等、不適正処理の防止

各委員からのワークシートより、重複しているものをまとめ、施策としては次の5つとした。

- ① 一般廃棄物の削減
 - ② 3 R の徹底
 - ③ レジ袋の使用削減
 - ④ 自販機
 - ⑤ 不法投棄対策
- 「きれいな空気・水・緑に囲まれた、安全・安心・健康・快適な生活環境の実現をめざす」
この将来像の方は、井上委員と瀬林委員がワークシートを提出していたが、時間の関係上瀬林委員が井上委員の内容を盛り込み、まとめて各委員に修正してもらうこととなった。また、井上委員のワークシート「⑤市街地の緑化率の向上」は都市計画の分科会の内容にあるので生活環境では省くこととした。

「資源・エネルギーを大切にすまち」の方もワークシートの具体的な中身までは話し合えなかったので、栗岡委員が内容をまとめ、メールでやりとりし内容をつめることとなった。

次回の全体会議では、「資源・エネルギーを大切にすまち」の方は栗岡委員、「きれいな空気・水・緑に囲まれた、安全・安心・健康・快適な生活環境の実現をめざす」の方は瀬林委員が発表することとなった。

都市環境分科会

平成23年8月2日（火）14時～17時 第23会議室（北棟6階）

<出席者>

委員：石田、北浦、上市、河野、三宅、向出

事務局員：油谷、松本

<オブザーバー>

北端

1. 前回第9回分科会に引き続き、(都市FG)以降の「施策の検討ワークシート」の内容について協議を行った。

①ワークシート（都市FG）

完成したワークシートは別紙のとおり。以下に各委員の意見を記す。

- ・指標について、マイカー入来数は入込数に変更する。また、バス利用者数の指標を追加する。
- ・短期の取り組みとしてあがっている、事業所単位のマイカー通勤自粛活動については、まずは啓発から始め、中期的な取り組みとして自粛活動や拡充を行い広げていく。
- ・同じく中期的な取り組みとしてあがっている、路線バスの低公害車化促進については、促進するための制度や補助金などが充実し、代替ペースを早期化しないと進まない。また、古いバスを新しいものに買い替えるだけでCO₂削減になるのでは？

関西圏においても自動車NO_x、PM法により対策地域を指定し、大気汚染の改善を図っている自治体もある。

※自動車NO_x、PM法 → 平成13年6月に制定。首都圏・大阪・愛知などの大気汚染の厳しい大都市を「対策地域」として定め、対策地域に登録している車でNO_x（窒素酸化物）とPMの排出基準に適合しない車は、車の所有、使用が制限されるというもの

- ・より良い都市環境を構築していくためには、中長期的な取り組みとして、ユニバーサルデザイン（誰もが利用できる）の道路づくりを推進していく必要がある。
- ・ノーマイカーデーについては、行政は旗を上げているだけで出来ていない気がする。
⇒市内向けに通知をし、毎月20日をノーマイカーデーとしているが、それ以上のステップアップは現在行われていない。
- ・大手の自治会や企業から働きかけていくと、効果があるだろう。行政はそういった啓発と取り組みを進めていくことが必要。
- ・（観光や通勤などを含む）中心市街地へのマイカー進入規制について何か行っている？
⇒市として現在、規制まではしていない。奈良公園など県管理で一部行われている場所はある。
- ・駐車場を減らせば、乗り入れも少なくなるのでは？大阪などの様に地下駐車場を増やせば良い。
- ・無電柱化（電柱を地中に埋める）を進めていく必要がないだろうか？

⇒電磁波による影響が心配。それ程の影響が無いにしても景観的な観点での話になるので、ここでは取り上げなくて良いであろう。

②ワークシート（都市I）

完成したワークシートは別紙のとおり。以下に各委員の意見を記す。

・「地域に見合ったコミュニティーバスの運行改善」については中期ではなく、短期の、また「時間帯別マイカー交通規制でバス定時発着性確保」や「バス専用レーンによるパーク&バスライド定着化」については中期の、「主要駅に乗継駐車場整備」については長期的な取り組みにそれぞれ変更する。

・コミュニティーバスは現在、都祁で走ってはいるが、さらなる普及には補助金の充実が必要。

③ワークシート（都市J）

完成したワークシートは別紙のとおり。以下に各委員の意見を記す。

・指標に「自動車道・歩道整備延長」、「レンタサイクル利用者数」を追加する。

・短期の取り組みとしてあがっている「交通安全教育の徹底」については、歩行者、自転車、自動車等の三者を含めた形で自動車教習所や学校など教育機関で行うべきであろう。

・中期の取り組みとしてあがっている「レンタサイクルネットワーク構築」については、自転車の乗り捨て等の問題がある。また、駅周辺だけでなく大仏の周辺や観光が行い易い箇所に設ける事で、さらなるレンタサイクルシステムの充実が図られるだろう。

・「ユニバーサルデザインの道路づくり」を中期の取り組みに追加する。

・「歩行者と自転車通行者の安全を図った道路整備」及び「歩行者に安全な自転車道整備」については実施期間を短期から中期に変更。

・行政の中期的な行動としてあがっている「レンタサイクルネットワーク構築への助成」については、実現するためのNPOを立ち上げるという事に変更。実際に行うのは事業者やNPOで、それをサポートするのが行政の役目。

2. その他

今回の分科会において、施策の検討ワークシートがほとんど完成したが、一部指標や目標設定及び都市環境プロジェクトとしてのリーディングプロジェクトについて十分な議論が出来なかったため、リーダー・副リーダーはじめ各委員と事務局とでやり取りを行い、発表までの最終の詰めを行う。

地球温暖化対策分科会

平成23年8月9日（火）18時～21時 第23会議室（北棟6階）

<出席者>

[]は当日欠席委員

委員：北端、田川、鶴保、清水、宮澤、村木、[松本]

事務局員：柴田、坂崎

1、大まかな流れの説明

骨子（案）が作成中であり、計画の概要が見えてきた。現在検討している施策については、2～5章あたりに記載されると思われる。

リーダー会議（8月11日）において議論され、次の全体会議で委員の皆さんに提出される予定である。

2、施策ワークシートの検討

前回の会議を受けて加筆や修正されたものについて

【宮澤】 前回は環境教育や都市環境の分野の内容も記載していたので新しく考えました。

奈良市地球温暖化対策地域実行計画において、民生（家庭・業務）、運輸部門の排出割合が大きい。

行政に補助金等の施策を推進する方法もあるが、財政的な制約もある中いかにやっていくかを考えた。

現在、スマートハウスの規格が出来ようとしている。奈良市にスマートハウスを早期に誘致し積極的に進めていくことで、色々な企業も集まってくるので環境と産業の両立にもなる。いち早く手を上げてはどうだろうか？

電気自動車においても先行している団体にコンタクトをとって推進していくためには「何が必要なのか？」を聞いて実行に移していけば効率よく推進していける。

奈良はA重油などの使用が他の地域より多いと思われる（古くから使用している？）これを効率の良いものにシフトしていけば排出量を削減することが出来る。

太陽光発電についてはある意味いつでも手を打てるので、先行して成果が上がるであろうスマートハウスに手を上げればよいと思う。スマートコミュニティを作ることが出来れば、地球温暖化対策と経済的発展の両立が出来る。

（質疑）

○実際に奈良市において（文化財が一杯埋まっているようなところで）スマートコミュニティに適した場所があるのか？都心に近い地理的に有利な場所と誘致等の競争したときに奈良には勝ち目がないと思う。

○高効率機器へのシフトをメインにしたほうが現実的では？

【清水】 前回までの施策（「再生可能エネルギー」）に追加して、昨年度に議論してきた現状の問題点を施策にする作業として他の委員から提案のなかった問題点について急遽施策シー

トを作成してみた。「低公害車、低燃費車の普及」、「二酸化炭素排出量の見える化」および「奈良市の環境指標」について考えてみた。

(質疑)

○「再生可能エネルギー」についてはまずは「賦存量調査（どんなエネルギーがどこにどれくらいあって利用可能か）」が必要。太陽光（市民共同発電）太陽熱以外に記載している小水力発電とバイオマスの利用については理想も一部含まれている。

○「低公害車・低燃費車の普及促進」について市役所の低公害車の導入促進は地球温暖化対策庁内内実行計画において行っている。現在は市民向けの補助制度はない。

○「奈良市の地球温暖化の指標」については、過去にも調査しているものを継続して調査していく必要があるので奈良女子大学などの研究機関との連携も欠かせない。自然歴史の分野とも重なるのではないだろうか。

【村木】 これまでも、環境においてセミナーなどを行って一定の成果は挙げているが、同じようなメンバー（関係者）が集まり手段が目的化してきている気がする。

市民が参加できる、集団ですることの意義など現在行っている社会実験を広げていけばいいと思う。（詳細は施策シート）

現在の社会実験を成熟させていき、自主的な削減の手段（環境家計簿やセミナーなど）によって、市民の温室効果ガス削減は出来るものとする。

(質疑)

○目標の世帯数は？

⇨25%削減から逆算した家庭部門で削減しなければいけないだろう削減量を実行する

15,000世帯（現在の世帯数の約1割）であり、本気でやれば実現可能と思っている。

○金銭面において産業界を巻き込むにはある程度システムが軌道に乗ってからの方が乗ってきやすいと思う。もしくはメセナ（企業の社会的貢献）はどうだろうか。

【鶴保】 施策の内容に大きな変更はない。（1つにあったものを分けた）3つ目に何らかの宣言を行うと良いのではないかとの思いを記載した。

(質疑)

○3つ目の「市議会における低炭素社会宣言声明の議決」とあるが・・・

そもそも施策シートの内容ではないと思う。（議会の内部についてのことなので）

宣言をしたとして、市民には何の影響もない。他の自治体やマスコミの注目度があがる。

市民として議会に要望するというのではだめなのか。

【田川】 現在は、石油や電力を使用してごみを燃焼させているが、それを燃やさないでメタン発酵させる方式を提案する。エネルギーの地産地消が目標。神戸市では実際に導入され、メタン発酵による場内の使用電力のカバー、自動車燃料、大阪ガスの買い取りが行われている。本市でも導入すれば大きなエネルギー資源になるし、削減量も大きくなる。段階的に進めるために、例えば特区を設けて小さな設備で試験運転をするなどを経て10年後に本格稼働させる。発生量が大いところから削減していかなければならないこと

から考えると妥当であろう。

(質疑)

○ごみの焼却とメタン発酵のプラントにおけるエネルギーの収支などを推計する。浄化センターは県の施設であり奈良市の施策には無理がある。(市の浄化施設でミニプラント)

○実証実験をするについても、金額が大きいののでコストの試算等が無いと施策の議論すら出来ない(詳細なデータを提示して欲しい)

○一般家庭の生ごみをターゲットにするには、分別、保管、収集の点でクリアすべき問題が多い、まずは学校給食をターゲットに緑ヶ丘浄水場で実験を行うのが現実的(それでもクリアすべき問題は多い)ではないか、その規模での試算をお願いしたい。

【北端】大きな修正は無い(文言等の修正)

3、地球温暖化対策分科会としてのリーディングプロジェクトについて

宮澤案：夢があってよい(もう少し現実的な施策(高効率機器へのシフトを前面に)に修正)

村木案：ソフト事業として(見える化なども加えたかたちに修正)

田川案：中長期的な視点で行っていくもの(博打的な要因はあるが)(具体的なものに修正)

他の施策(案)についても却下ではない(リーディングプロジェクトとして取り上げないだけ)

各自修正を行ってメール等で詰めていく。

発表者は田川さんをお願いする。